

今、なぜロースクールで学ぶのか ☆列島縦断リレー☆ 法科大学院がわかる会  
兵庫会場 来場者の感想文

### <感想文1>

「法科大学院がわかる会」へ参加したのは、大学卒業後の進路選択の指針を得るためでした。法律家として働くことを選ぶとしても、他の道を選ぶことになったとしても、法律家の方々からお話を聞けることは大きなチャンスだと思いました。特に、個別懇談会で現役の法律家と直接会話できることに惹かれ、この会へ足を運びました。

会場では実際に、弁護士の方と一対一でお話させていただきました。私が仕事をする上での葛藤などについて伺うと、「非常に悩むこともあり、思い通りにいかないことの方が多い。それでも、依頼者のために最善の解決策を見つけることが使命であり、面白さでもある。裁判で敗訴したとしても、依頼者から『ありがとう』と言ってもらえる弁護士が良い弁護士だ」と答えてくださり、弁護士という仕事の奥深さを感じました。また、私が進路選択に悩んでいることを話すと、弁護士以外の職業についても、弁護士の視点からどのような意義を感じているかというお話をいただき、進路選択の大きな指針となりました。弁護士の方と直接お話できたことは、単に仕事内容を知るだけでなく、仕事の醍醐味や他の職業との差異までも感じられる、貴重な経験でした。

法律家になることや法科大学院へ進学することを考えるにあたっては、近年の弁護士就職難といった問題が思い起こされ、こうした方向へ進むことにためらいも感じます。しかし、講演などで、「法曹や法科大学院修了生が活躍できる分野はまだ残っているし、実際に新しい形で活躍している人も多い。これから開拓していくことも必要である」といったお話を様々な方がしており、法律家の未来は決して行き詰まってはいると考えるようになりました。これから、法科大学院進学も十分な選択肢として考えながら、今後の進路を選択していこうと思います。

### <感想文2>

#### 【参加した理由】

最近法科大学院のマイナスイメージばかりが独り歩きし、プラスイメージが見えてこない。この講演会は、「法科大学院の魅力」をテーマにしており、実際に大学教員や法曹が考える法科大学院の魅力とは何であるのかという点に興味を湧き、参加した。また、法科大学院の魅力を知ることによって、自分自身の将来の選択の幅がさらに広がるのではないかと考えた。

#### 【参加して気づいた法科大学院の魅力】

現在の法科大学院は、「教える側」と「教わる側」がともに切磋琢磨しながら学習する場所であることに魅力を感じた。互いが切磋琢磨しあう事で、学びのプロセスにも価値を見出すことができ、司法試験を合格した先のビジョンをより深く掘り下げることができるのではないかと考える。現在、ロースクールの修了生の問題として、司法試験の合格のみを目標としているために、そのほかの勉強が足りていないことが挙げられる。しかし、司法試験の先を見据えた教育プロセスのもとで、法科大学院における法曹養成が今後充実されるならば、法曹業界がさらに活性化していきたく感じました。法科大学院は、

教員・実務家が真摯に学生と向き合い、夢を実現させる点から「未来につながる教育の場」であると実感した。

#### 【参加して気づいた法曹の魅力】

現在、弁護士の人口増加とは反対に、法廷事件が減少していることから、弁護士人口の過剰が問題視されている。しかしながら、同時に、法廷外で新たな分野で活躍できる新たなチャンスでもあることに気づく。弁護士は法廷内だけではなく、法廷外においても企業法務・公務員などの立場で活躍し、新たな分野を形成している。法曹資格というのは、様々な分野において活用でき、自身で新たな分野を開拓することのできる魅力があると感じる。そのため、いかに潜在ニーズに反応し、応えていくかがこれからの弁護士に求められることだと感じる。

#### 【参加して良かったこと】

パネルディスカッションを通して、法科大学院卒業者であり現在実務家として活躍している方と直接お話しができたことが一番良かった。どのような勉強方法で合格し、現在どういった仕事をしているか、直接聞く機会がほとんどないため、自ら質問し、意見や経験を聞くことにより、実務家の仕事内容について理解が深まった。一方で、法科大学院修了者の中で、法曹資格なしに様々な場所で活躍されている方がたくさんいると伺ったので、そういった方の意見も聞きたかったと思った。

#### 【LSや法曹への希望がどう広がったか】

法科大学院は近い存在であり、遠い存在である、と私は常に感じている。今まで法科大学院について、マスメディアによる様々な批判により偏った考え方を持っていたことは言うまでもないが、自分から歩み寄ろうとする姿勢が欠如していたということを感じた。実際、法科大学院で学ぶという事は、厳しい環境下に身をおくことである反面、修了者の方々はそれ以上の価値を見出していると感じた。自分自身、これから将来の選択をするにあたり、決して考えられない選択肢ではなくなったように感じる。

#### <感想文3>

私は将来、法律関係の仕事に就きたく院に行こうか迷っていました。院に行くことへのリスクや学費、本当に院に行くことに意味があるのかと、悩めば悩むほど自分の夢が遠のいていきそうで、日々憂鬱でした。そんな時、ゼミの先生から「法科大学院がわかる会」のチラシをいただきました。神戸という学校から近いところで開催されており、院のことを実際活躍なさっている専門家の方や教授のお話を聞けるのは、なかなかない機会だったのもあってどのコンテンツにも興味を持ちました。パソコンで調べるよりも、実際お話を耳を傾けるほうが知らない情報を聞けるのを楽しみにもしていました。

どのようなところがよかったかと申しますと、大きく纏めて2点あります。まず、院を目指して法律関係の仕事をごなしたい人にとって教授方や各専門家の方々のお話や情報が充実した資料はとても参考になりました。自然とわかりやすく頭に入り、理解出来、より院に行くにあたっての決心を固められたように思います。特に経済法の世界にこの人ありと有名な根岸先生の法科大学院の教育の話はその学生への熱い思いに、感銘を受けました。自分自身の力だけでなく、法科大学院の先生方や生徒達の力添えで将来を築きあげるのだと、まだわからぬ自分の未来への期待とそのため勉強へのやる気が出てきました。

次に、各専門家の方々との個人相談です。時間がもうけられていて、他の人の話を聞いて終わって

しまうこともありましたが、それも自分にとってはいい経験だったと思います。様々な分野で活躍されている方にお話を伺うだけで、四方八方から違う着目点からの意見が飛び交うのはおもしろかったですし、勉強にもなりました。専門家の方も熱心に答えてくださるので、後から後から質問が出てきて話がつきませんでした。法科大学院での生活や勉強へのモチベーションの維持の仕方等、一個人として法科大学院での過程を通った方としての応答はとても参考になりました。詳しく教えてくださって、感謝の念に絶えませんでした。

今回の会を受けて、私は先程申しましたように、法科大学院に進むことを決心しました。そのために日々精進していく心積もりですが、その会が私に法科大学院進学への目標を与えてくれたひとつの要因として、私の中でずっと残ると思います。実際のところ、現在、弁護士や司法書士はその試験の難しさだけでなく、成った後の就活でも困難の色を濃くしています。けれど、今の大学にはないものを自分の夢のために、法科大学院で学びたいです。

最後にこのような会が今年開かれたことを感謝しております。きっと、まだ法科大学院のことをよく知らない人やそうでない人にとっては、貴重な体験だったと思います。機会を与えてくださって、ありがとうございました。